

浄土宗コドモタイムズ

第25号

発行 浄土宗児童教化連盟

発行人 平野 仁司 〒252-0027 座間市座間1-3300 宗仲寺内 TEL・FAX 046-257-0397

「うちらお寺探検隊」がいろんなお寺をめぐって、その秘密を探りま〜す。

寺不思議 ハツケン!! ②

青龍寺編

今回紹介するお寺は青龍寺です。正式には比叡山延暦寺一山寺院・西塔別所黒谷青龍寺とい

います。18歳でこの地に来られた法然上人は43歳で浄土宗を開かれ、比叡山をおりるまでの25年間を、

ここ黒谷で過ごされました。9歳で父を亡くされた法然上人は、故郷の美作の国(今の岡山県)を去り、15歳で当時の学問の中心地であった比叡山にの

ぼられます。当時の比叡山には、勉強に励むお坊さんがいる一方で、僧兵といってお坊さんが武装化する者も多く、朝廷におしかけたり、お寺を焼いたりして、比叡山が戦場にもなっていました。

そんな中、法然上人は天台宗の教えを学ぶ日々が続きました。「名譽の望みをやめて、静かに仏法を修学したい」と思われ、青龍寺での修行を決意されました。黒谷の慈眼房叡空上人のもとに入られ、お坊さんとしての

道を歩まれたのです。

法然上人は修行に励んでおられました。自分の行っている修行のあり方に疑問をもちました。そして奈良や京都のいろいろな宗派のお坊さんを訪ね、自分の持っている疑問を聞いてみました。しかし、納得のいく答えは得られませんでした。

悩み続けた法然上人は黒谷に帰られ、報恩蔵(今でいう図書館みたいな感じかな?)に入って、一切経を5回読まれました。一切経とは、仏教聖典のことです。たくさんある経典と論という経典をわかりやすく説明したものなどが含まれます。その数なんと5000巻あまり。

法然上人はその中の「観経疏」という巻物の中に「一心に南無阿弥陀仏と唱え、起きていても横になっても、座していても歩いていても、時間の長い短いに関わりなく持続すれば、

↓次のページへ つづく

ふたりの道②

遮那王と源空

(牛若丸と勢至丸)

第二回 復讐のころ



かろうじて命はたすかったふたり。それぞれ鞍馬寺と菩提寺へ。でもまだ正式のお坊さんではないんだ。牛若丸七歳、勢至丸九歳だった。

ふたりとも優秀だ。仏教の勉強に熱中した。お経を読み、内容を教えてもらう、読書する。そんな日々が続いた。牛若丸は、父源義朝の仏教の先生だった東光坊に教えを受けた。昼間はお経を読み、夜は仏さまにもす光で、明け方まで本を読んでいた。

「この子は、勉強を続けたなら、仏さまのように尊敬されるようになるぞ」ところが、十五歳の時、勉強心がはたとやんでしまった。

どういうわけだ!……父の家来だった者が鞍馬にやってきた。平家の時代になったのを悔しくて、「平家を倒そう。源氏の復活だ!」とそそのかした。牛若丸ははじめて自分が源氏の中心のひとりを知った。

牛若丸は、謀反のことがかり考えるようになった。それには体を鍛え、戦いの修行をしなければならぬ。夜になると寺を抜け出し、山の中で剣術の稽古をした。大きな木を敵大将の平清盛と名づけ、刀で切りつけた。天狗があらわれ、剣術を教えたという。

こうして、平家にたいする復讐心は、ますます大きくなっていった。そんなようすは、まわりの人にも知ら

れるようになった。先生の東光坊は、

「うらみの心を持っていては、だめだ」と、名も遮那王と変え、髪を切って正式のお坊さんにしようとした。しかし遮那王は、がんと承知しなかった。

勢至丸は、どうだったろう。勢至丸が行った菩提寺は、おじさんの観音がいた。勢至丸は、一を聞いては十を知る賢い子だった。川の水が流れるように早く理解した。仏教をもっと勉強したい気持ちがあわてきた。

それでも、まわりから、いずれ仇討ちして漆間の家をふたたび興してもらおうという期待がかかる。ひとりっ子だから期待はなおさら。しかし、父の遺言「復讐するな。お坊さんになれ」、が気になる。成長するとともに、いっそう悩みとなった。

おじさんの観音は勢至丸の才能を見ぬいていた。最高の仏教学校、都近くの比叡山延暦寺に行くことをすすめた。

「よし、お坊さんになろう。もっと深い仏教の教えを勉強しよう!」勢至丸は決心し、もう悩まなかった。勢至丸十五歳、比叡山に上った。そして十八歳、源空という名をもらった。

さて、牛若丸こと遮那王は、とうとう鞍馬山を抜け出し、武士の道を歩むことにした。十六歳だった。



つづく

「うちらお寺探検隊」がいろんなお寺をめぐって、その秘密を探りま〜す。

↓ つづき

寺 不思議 ハッケン!!

せいりゅうじへん
青龍寺編

必ず極楽世界に生まれることができ
る。それは阿弥陀仏の心になつた
行である」という一文を発見され
たのです。

その後法然上人は南無阿弥陀仏の
教えをみんなに広めるために、比叡
山を下りられたのです。

青龍寺では毎年7、8月に「おて
つきこども奉仕団」という宿泊の研
修が行われていて、全国から子ども
たちがたくさん参加しています。

お寺のまわりは自然に囲まれ近く
には滝もあるそうです。

青龍寺に行くまでにはけっこう歩
かなければいけません。またお寺の
前には急な石段もあります。きつと
体力がつかますよ!



報恩蔵

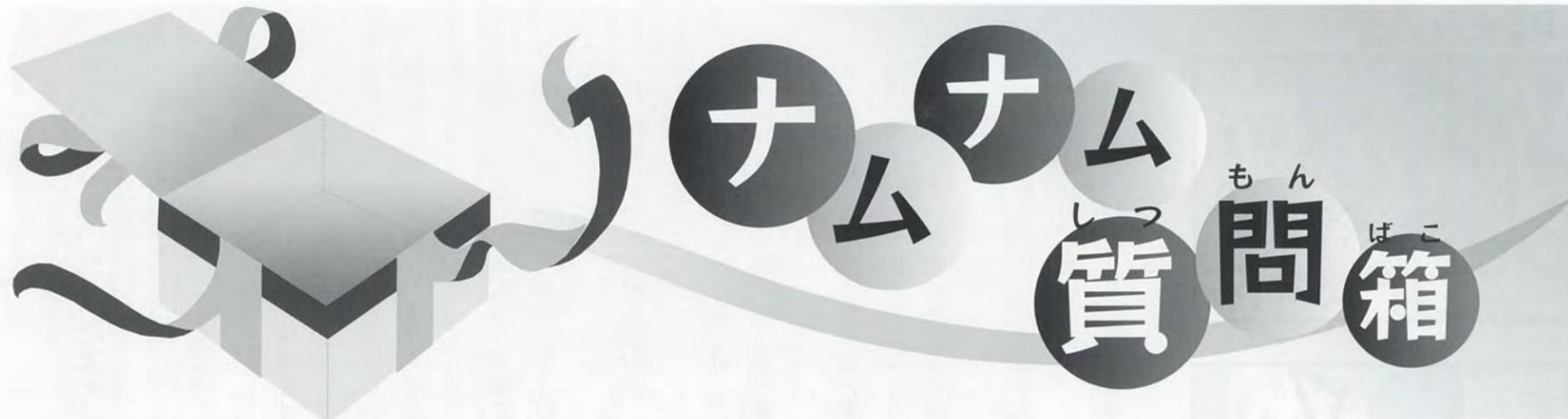


法然上人

青龍寺



比叡山延暦寺境内



質問

おとうさんの帰りがおそい事をおかあさんは「ごぜんさま」といいます。なぜですか？

(東京 小四 男子)



答え

たしかに「お父さん昨日は、ごぜんさま」など、使いますね。仕事や遊びで、家に帰るのが深夜0時を過ぎることを「ごぜんさま」と言います。これは「午前」と「御前」(ごぜん)をかけた言葉です。0時を過ぎて午前に帰ってきたという「午前」は理解できますが、「御前」とは何を指すのでしょうか。これは人の事です。元々、仏様や神様の名前を直接呼ぶのはおそれ多いとして、間接的にしかも敬意をこめて、御前様と申し上げます。やがて天皇や偉いお坊様にも御前様と呼ぶようになりました。今でも、本山などのお寺では、住職のことを「御前様」と呼びんでいます。

ところでこの「御前様」。訓読みすると「おまえさま」と読めます。「ごぜん」と「おまえ」では意味が大きく変わってきます。「ごぜん」と言われて怒る人はいませんが、「おまえ」と言われれば怒る人もいます。学校の先生にもし、「おまえ」と皆さんが言ったら、もちろん怒られますね。昔は相手を敬って用いた言葉が、今では相手を見下した言葉となってしまうています。「貴様」などもその一種です。

言葉づかいはとても大切です。気持ちを含めた言葉、相手にとって心地よい言葉づかいを心掛けましょう。

質問

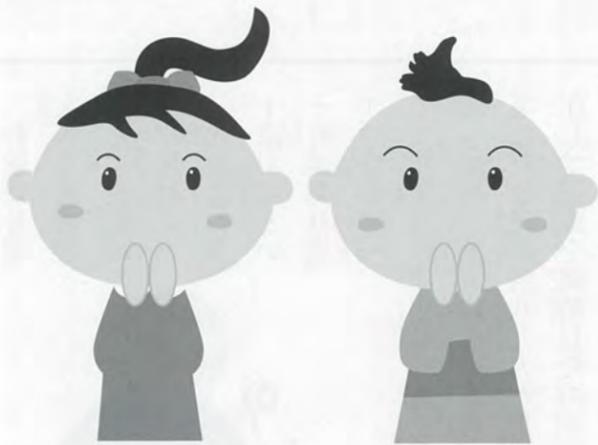
この間お寺の法要に参加しました。それで手を合わせていると、だんだん手がふくらんできます。どうしたらいいですか。

(大阪 小四 女子)

答え

手を合わせることを合掌といいますが、「掌」は手のひら、または「たなごころ」ともいいます。たなごころとは「手心」の意味で、手のひらには心が表れるのでしようね。楽しいときは楽しい心、悲しい時には悲しい心、うれしい時には手の平もうれしそうな表情に見えますね。さて長い間合掌していると、だんだん両手がふくらんできますね。大人でもそうなりますよ。

一つ良い方法があります。それは手を合わせている時、両方の中指に少し力を入れるのです。そうすると手はふくらまなくなります。手を合わせるで見えなくなるけど、手のひらはきつと仏さまのようなやさしい表情をしていると思えますよ。



暗太くん

寺田 剛



3月11日東日本大震災が起こり、多くの方がお亡くなりになりました。

本来、この世は無常だと感じずにはおれません。この無常とは、諸行無常といって、世の中のもの、全てが移り変わって、変わらないものはないという意味です。何となく難しいね。つまり永遠に変わらないものはないという事です。

みんなが住んでいる家も、大切にしているおもちゃも、ずーっとあると思っているけれども、いずれ時間が経てば壊れてしまふんだよ。

それどころか、家族や友達の命、さらに自分の命もいずれは亡くなってしまふんだよ。

それは想像できないだろうけど、やがてやってくるんですよ。さらには、突然亡くなってしまふ事もあるんだよ。東日本大震災がそうだよ。

すごく悲しい事だね。さみしい事だね。

「あつて当たり前、無くなるなんてないよ。」って思ってしまったけれども、いずれ無くなるからこそ大切にしなければいけません。

だから、物を大切に、家族を大切に、友達を大切に、自分の命を大切にしてほしいな。

今回の大震災で亡くなられた方達の分まで、精一杯、生きよう。

これも仏教の言葉だよ!

無常(むじょう)

ちがいさがし

絵：田畑会海



お知らせ

◆みなさんからの記事を待っています。学校でのこと、家の中のこと、家族のこと、友だちのことなどを書いて送ってください。

◆またみなさんからの作品も待っています。絵や作文、お習字など何でもけっこうです。

◆送り先は
〒252-0027 座間市座間一三三〇〇
宗仲寺内 浄土宗児童教化連盟事務局
感想もいっしょに書いてください。

TEL/FAX 046-257-0397

前回の答え

1. 雲の色
2. 太陽の色
3. 一番右のお地藏さんの前掛けの色
4. 一番左のひまわりの葉の色
5. 真ん中のひまわりの茎

左の絵と右の絵のちがうところを5つ見つけてください。ハガキに答えを書いて左記まで送ってください。正解者の中から抽選で30名に記念品をお送りします。記事の感想や意見もいっしょに書いてください。しめきりは11月25日です。

送り先
〒252-0027
座間市座間一三三〇〇
宗仲寺内
浄土宗児童教化連盟事務局
TEL/FAX
046-257-0397

ぶくぶく編集室



台風12号で大きな被害が出た奈良県の十津川村。北海道に新十津川町という町があります。今から二二年前に十津川村に大水害が起きて村が壊滅になった時、被災した住民二四八九人が集団移住して原野を開拓したのが始まりです。

このたびの台風の被害に対して、新十津川町では母村と呼ぶ十津川村の一大事に、町から五千万円のお見舞金を送り、また町内各所に義援金の箱が設置され、また町の職員が応援派遣されました。これ以外にもさまざまな支援が計画されているそうです。

新十津川町の人たちにとって十津川村は自分たちのご先祖の住んでいた故郷です。何とかしたいという気持ちなのです。

困った時はおたがいさま、明日は我が身です。救援を必要としているところへは、できる範囲のことで支援、協力したいですね。